

セルフコピーの使い方

コインコピーの使い方

～紙原稿コピー編～

2009 年 4 月

プリンテック DIY

●基本的なこと

プリンテック DIYのコインコピー機は普通のコピー機として使えますが、中綴じ製本装置がついていて、コピーした印刷物をそのまま中綴じにすることができます。

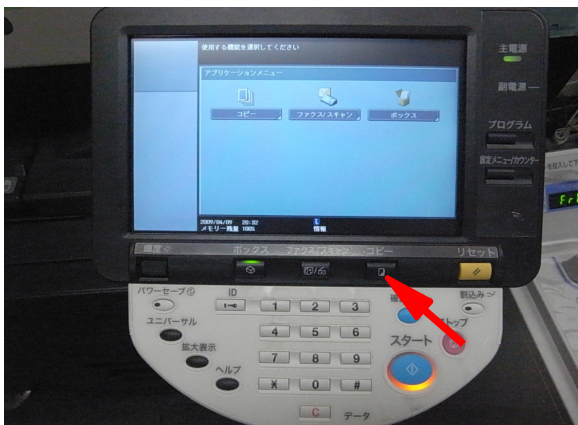
●原稿の準備

同人誌用原稿用紙に描かれる方が多いようです。B5→A5などの縮小コピーもできます。

ただし、コピー本では「裁ち切り柄」にはできませんので、仕上がりの周囲が白くなります。また、原稿用紙をそのまま使う場合、描き終えた後で周囲をあらかじめB5に切っておくほうがコピーが簡単です。（再版の予定がある場合などは、(1)一度原稿をコピーし、その周囲を切り取ってコピー原稿にする (2)原稿を読み込ませるとき、位置をずらして読み込ませる といった方法があります。）

●基本的な使い方

コインを入れるとコピー機の画面が立ち上がりますので、タッチパネルやボタンで操作します。



もし最初の画面が「ボックス」になっていたりする場合は、「コピー」を押すと、コピーの初期画面に戻ります。



これがコピーの初期画面です。タブで「基本設定」「原稿指定」「画質／濃度」「応用設定」を開き、各種の設定を行います。

●原稿の読ませ方



プリンテック DIY のコピー機は、先に「表と裏」や「1 ページ～20 ページ」のように原稿を全部読ませておき、それからまとめて出力することができます。

複数の出力の場合は、両面や小冊子などの設定をした上、ガラスまたは ADF (自動原稿送り装置) で読み込ませてください。

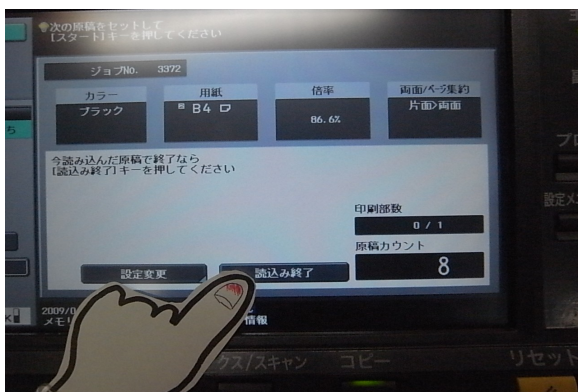
※まとめて読み込むときは、「基本設定」の「連続読み込み設定」を ON にしておきます。

※ADF を使う場合は、後述の「ADF を使う場合の注意」をよくお読みください。

●まとめて読み込ませる～確認する～本番を出力する

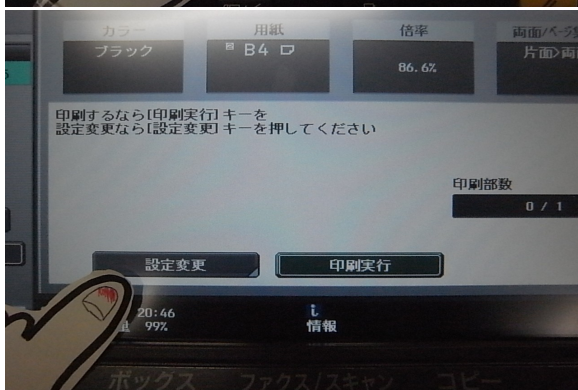
ガラスの上に原稿をセットします。ADF を使う場合は、表を上にして ADF にまとめてセットします。

「スタート」を押下すると、「原稿カウント」の数字が 1 増えて、「次の原稿をセットして[スタート]キーを押してください」と表示されます。

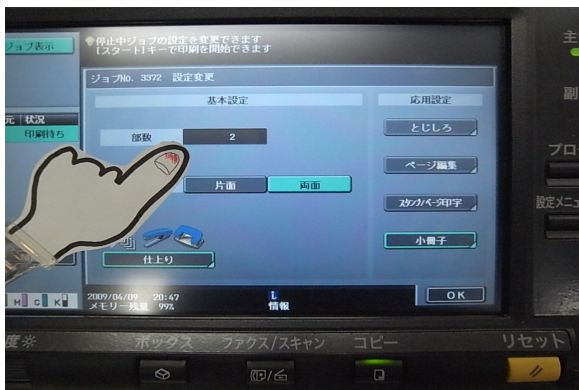


次の原稿があれば原稿を取り替えて「スタート」を押下し、最後まで繰り返します。

全部読み込みが終わったら、「読み込み終了」「スタート」の順に押下します。



次の画面に変わったら、「設定変更」を押します。



ここで、部数を設定・変更することができます。部数をテンキーから入力します。



次に、「確認コピー」を押下します。

設定された内容で、1枚（小冊子の場合は1冊）だけ出力されます。

仕上がりに問題がないことをよく確認し、問題がなければ「スタート」を押下すると、確認コピーと合わせて設定した部数になるまで出力されます。

設定が違っていた場合は、テンキーの下の「C」（ク

リア）を押下し、設定をやり直します。

●ADF を使う場合の注意

ADF は、普通紙をまとめて読み込ませる場合に使用します。

コピー原稿などは、ADF で読み込ませると便利です。

切り貼り、テープ止め、スクリーントーンなどを使った原稿、厚紙などは、ADF を使わずガラスで読み込ませてください。

※原稿詰まり、破損などが生じてても、弊社は一切その責任を負いませんので、ご了承の上ご利用ください。

●手差しトレイの使い方

プリンテック DIY では、コピー機の「手差しトレイ」の使用について、特に制限していません。

コピー機を壊すような紙でなければ、自由にお使いになれます。

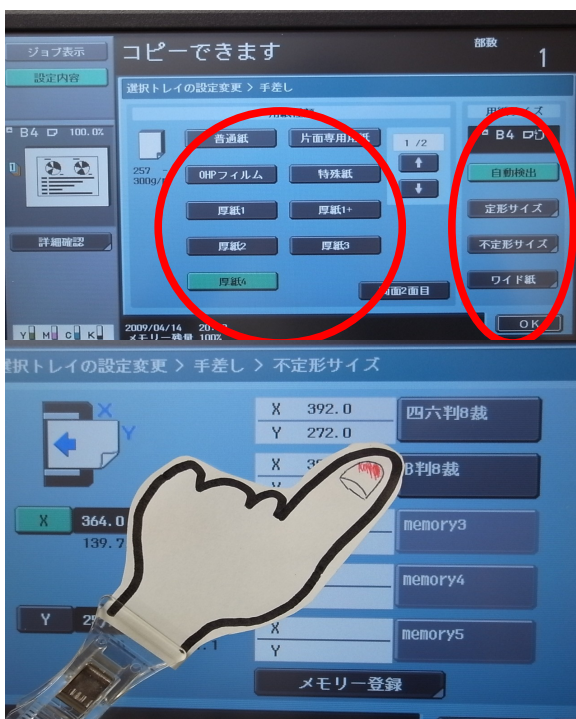
※「インクジェット専用紙」のように、コピー機（レーザプリンタ）で使えないとされている用紙は、使わないでください。



(1)手差しトレイには、プリントする面を下にして紙をセットします。紙詰まりを防ぐため、セットの前によくさばきます。



(1')ただし、別にプリントした表紙を小冊子にくるむだけの場合は、表紙の表面を上にしてセットします。



(2)用紙をセットすると、手差しトレイの紙の種類や大きさを設定する画面に変わります。

厚紙にプリントする場合は、用紙の厚さを普通紙～厚紙4の中から、コピー機備え付けの「料金表」や、画面表示の厚さなどを参考に設定します。

プリント済みの表紙を表紙としてくるむ場合は、どんなに厚い紙でも「普通紙」に設定します。

(3)用紙のサイズは通常自動検出されますが、違って検出されている場合は、「定型サイズ」「不定形サイズ」から選びます。表紙用にカウンタで販売している「四六判8裁」の場合は、「不定形サイズ」の中のメモリに登録してありますので、それを選びます。

●「プログラム」で設定を呼び出す

ここからは、出力したいものに合わせた設定の方法を説明します。

設定は超マニアックな項目をいちいち設定するのが基本ですが、主な設定を「プログラム」に登録してありますので、まずその中から近いものを選び出し、必要に応じて細かい設定を加えるのが便利です。

●「プログラム」の呼び出し



(1) 画面の右側にある「プログラム」のボタンを押下します。

※コピーの初期画面になっていないときは、先に「コピー」を押下します。



(2) 「コピープログラム」の画面が表示されるので、その中から設定を選び、「OK」を押下します。設定の名称は文字数の関係上省略形になっていますので、表をごらんください。

※プログラム画面は3ページに分かれており、1ページ目にあるとは限りません。画面右側の矢印キーを押下すると、ページが変わります。

(3) そして、必要に応じて細かい設定を追加してコピーします。

| 設定名 | 設定内容 |
|--------------------------|---|
| 単＞中右 B5 単＞中左 B5 | 面付けされていない原稿から、コピー機で中綴じ製本までを行って B5 の冊子に仕上げます。特別な表紙はなく、原稿の 1 ページ目が表紙になります。「右」「左」は、それぞれ右綴じ、左綴じを意味します。 |
| 面＞中 B5 | 面付け済みの原稿を両面に印刷して B5 の中綴じ冊子に仕上げます。原稿の「1 ページ目」が一番外側になって綴じられます。 |
| 単＞中右 B5, 表 単＞中左 B5, 表 | 面付けされていない原稿から、コピー機で中綴じ製本までを行って B5 の冊子に仕上げます。表紙は事前に準備して手差しトレイから供給します。原稿の 1 ページ目が本文最初のページになります。「右」「左」は、それぞれ右綴じ、左綴じを意味します。 |
| 面＞中 B5, 表 | 面付け済みの原稿を両面に印刷して B5 の中綴じ冊子に仕上げます。表紙は事前に準備して手差しトレイから供給します。原稿の「1 ページ目」が一番外側になって綴じられます。 |
| カラ表（8 裁厚 1 ～厚 4 | 四六判 8 裁 (272mmX392mm) の用紙にフルカラーでプリントします。厚 1～厚 4 は、用紙設定の厚紙 1～厚紙 4 に対応します。 |

※A5 判の冊子を作る場合は、用紙トレイ 2 の用紙をあらかじめ A4 横の用紙に入れ替えて、B5 冊子の設定を読み込みます。本文用紙をトレイ 2 に変更すると、自動的に A5 冊子に変わります。

●原稿を自動的に面付けして、冊子に仕上げる

ここでは、「プログラム」を使って、面付けをしていない原稿をコピー機で自動的に面付けして冊子に仕上げる方法を説明します。特別な表紙はなく、原稿の1ページ目が一番外側の1ページになります。

(1) 本文に使う紙を、用紙トレイ2にセットします。（従業員が行いますのでお申し付けください。）

(2) 「プログラム」ボタンを押下し、画面から「単＞中右 B5」（右綴じの場合）「単＞中左 B5」（左綴じの場合）を選び、「OK」を押下して設定を呼び出します。A5の冊子の場合も、「B5」でかまいません。（参照：p6）



(3) 必要に応じその他の設定（カラー、倍率、画質調整など）を行います。

(4) 「基本設定」に戻り、用紙、倍率が正しいことを再度確認します。

(5) 「連続読み込み設定」がON(緑色)になっていることを確認します。

(6) コピー部数をテンキーで設定します。

(7) 全ページの原稿を読み込ませます。（参照：p3）

(8) 最後のページの読み込みが終わったら、「読み込み終了」→「スタート」の順に押下し、最終確認の画面にします。

(9) 「設定変更」を押下し、コピー部数に間違いがないかを再度確認してから、「確認コピー」を押下して、1部だけ試し刷りを出します。

(10) 仕上がりの具合をよく確認します。特に、ページの並びや向きをよく確認してください。

(11) 問題がなければ、スタートボタンを押下し、残りを出力します。出力中も適宜仕上がり具合を確認してください。

●原稿を自動的に面付けして、冊子に仕上げる(表紙を別に用意する)

ここでは、「プログラム」を使って、面付けをしていない原稿をコピー機で自動的に面付けして冊子に仕上げる方法を説明します。表紙は別途用意しておき、原稿の1ページ目が本文最初のページになります。

- (1) 本文に使う紙を、用紙トレイ2にセットします。(従業員が行いますのでお申し付けください。)
- (2) 表紙を手差しトレイに1枚だけセットします。(p5「手差しトレイの使い方」をよく参照してください。)
- (3) 手差しトレイの設定を、「普通紙」に変更します。
- (4) 「プログラム」ボタンを押下し、画面から「単>中右 B5」(右綴じの場合)「単>中左 B5」(左綴じの場合)を選び、「OK」を押下して設定を呼び出します。A5の冊子の場合も、「B5」でかまいません。(参照：p6)



- (5) 必要に応じその他の設定(カラー、倍率、画質調整など)を行います。
- (6) 「基本設定」に戻り、用紙、倍率が正しいことを再度確認します。用紙が「トレイ2」になっていることを、再度確認します。
- (7) 「連続読み込み設定」がON(緑色)になっていることを確認します。
- (8) コピー部数をテンキーで設定します。
- (9) 全ページの原稿を読み込ませます。(参照：p3)
- (10) 最後のページの読み込みが終わったら、「読み込み終了」→「スタート」の順に押下し、最終確認の画面にします。
- (11) 「設定変更」を押下し、コピー部数に間違いがないかを再度確認してから、「確認コピー」を押下して、1部だけ試し刷りを出します。
- (12) 仕上がりの具合をよく確認します。特に、ページの並びや向きをよく確認してください。
- (13) 問題がなければ、表紙の残りを手差しトレイにセットしてから、スタートボタンを押下し、残りを出力します。出力中も適宜仕上がり具合を確認してください。

●面付け済みの原稿を両面でプリントして、冊子に仕上げる

ここでは、「プログラム」を使って、既に面付けされた原稿を両面にプリントして冊子に仕上げる方法を説明します。特別な表紙はなく、原稿の「1 ページ目」が、一番外側の組の外側の面になります。

この場合は、あらかじめ原稿が中綴じの面付けになっている必要があります。

- (1) 本文に使う紙を、用紙トレイ 2 にセットします。（従業員が行いますのでお申し付けください。）
- (2) 「プログラム」ボタンを押下し、画面から「面＞中 B5」を選び、「OK」を押下して設定を呼び出します。A5 の冊子の場合も、「B5」でかまいません。（参照：p6）
- (3) 必要に応じその他の設定（カラー、倍率、画質調整など）を行います。



(4) 「基本設定」に戻り、用紙、倍率が正しいことを再度確認します。

(5) 「連続読み設定」が ON (緑色) になっていることを確認します。

(6) コピー部数をテンキーで設定します。

(7) 全ページの原稿を読み込ませます。（参照：p3）

(8) 最後のページの読み込みが終わったら、「読み込み終了」→「スタート」の順に押下し、最終確認の画面にします。

(9) 「設定変更」を押下し、コピー部数に間違いがないかを再度確認してから、「確認コピー」を押下して、1 部だけ試し刷りを出します。

(10) 仕上がり具合をよく確認します。 特に、ページの並びや向きをよく確認してください。

(11) 問題がなければ、スタートボタンを押下し、残りを出力します。出力中も適宜仕上がり具合を確認してください。

●面付け済みの原稿を両面でプリントして、冊子に仕上げる（表紙を別に用意する）

ここでは、「プログラム」を使って、既に面付けされた原稿を両面にプリントして冊子に仕上げる方法を説明します。表紙はあらかじめ別にプリントしておき、それをくるみます。原稿の「1 ページ目」が、本文の最初の組の外側の面になります。

この場合は、あらかじめ原稿が中綴じの面付けになっている必要があります。

- (1) 本文に使う紙を、用紙トレイ 2 にセットします。（従業員が行いますのでお申し付けください。）
- (2) 表紙を手差しトレイに 1 枚だけ セットします。（p5「手差しトレイの使い方」をよく参照してください。）
- (3) 手差しトレイの設定を、「普通紙」に変更します。
- (4) 「プログラム」ボタンを押下し、画面から「面＞中 B5、表」を選び、「OK」を押下して設定を呼び出します。A5 の冊子の場合も、「B5」でかまいません。（参照：p6）
- (3) 必要に応じその他の設定（カラー、倍率、画質調整など）を行います。



- (4) 「基本設定」に戻り、用紙、倍率が正しいことを再度確認します。用紙が「トレイ 2」になっていることを、再度確認します。
- (5) 「連続読み込み設定」が ON (緑色) になっていることを確認します。
- (6) コピー部数をテンキーで設定します。
- (7) 全ページの原稿を読み込ませます。（参照：p3）
- (8) 最後のページの読み込みが終わったら、「読み込み終了」→「スタート」の順に押下し、最終確認の画面にします。
- (9) 「設定変更」を押下し、コピー部数に間違いがないかを再度確認してから、「確認コピー」を押下して、1 部だけ試し刷りを出します。
- (10) 仕上がりの具合をよく確認します。特に、ページの並びや向きをよく確認してください。
- (11) 問題がなければ、表紙の残りを手差しトレイにセットしてから、スタートボタンを押下し、残りを出力します。出力中も適宜仕上がり具合を確認してください。

●フルカラーの表紙を作る

ここでは、「プログラム」を使って、フルカラーの表紙をプリントする方法を説明します。

コピー機はたいていの用紙にプリントできますが、凸凹や凹凸がある紙は、トナーの乗りが不均一になることがあります。表紙用の特殊紙はカウンタで販売していますが、そのサイズはほとんど「四六判の8裁」(272mmX392mm)です。ご持参の用紙などでこれと異なる場合は、設定を変更できます。

(1) 使う紙を、手差しトレイにセットします。(p5「手差しトレイの使い方」をよく参照してください。ただし、用紙の厚さの設定は(2)で行います。)

(2) 「プログラム」ボタンを押下し、画面から「カラ表紙(8裁厚1)～「(8裁厚4)のうちから、厚さに対応するプログラムを選び、「OK」を押下して設定を呼び出します。

(3) 「基本設定」タブで、「用紙」が「手差し」になっていることを確認します。

(4) 必要に応じ、その他の設定(カラーモード、画質調整など)を行います。

※ここで「2色カラー」や「単色カラー」などを設定することもできます。

(5) 枚数を1枚に設定し、「スタート」を押下します。

※「原稿サイズがわかりません」のような表示が出たときは、原稿サイズを設定してください。

(6) 仕上がりの具合をよく確認します。

(7) 問題がなければ、残りを出力します。必要な枚数を設定し、スタートボタンを押下します。出力中も適宜仕上がり具合を確認してください。

●その他の設定を行う

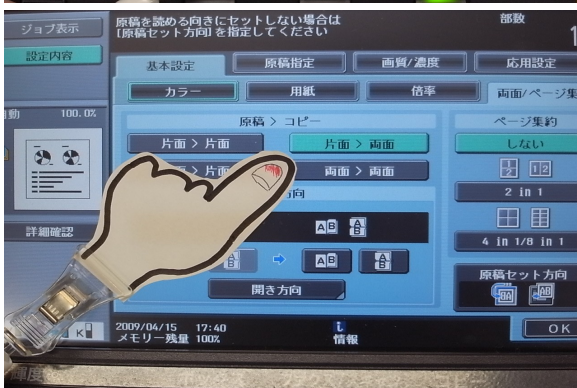
ここからは、「プログラム」ではなく、ご自身で設定を行う場合の操作を説明します。

これらの設定は、いろいろな設定を組み合わせで行うことも、「プログラム」に上乗せする形で行うこともできます。ただし、「プログラム」を併用するときは、先に「プログラム」、後から上乗せ設定を行います。

●両面コピーを取る



(1) コピーの初期画面で、「両面／ページ集約」を押します。



(2) 「原稿＞コピー」の項で、「片面＞両面」を選びます。（両面原稿を ADF にセットして読み込ませる場合は、「両面＞両面」を選びます。）

必要に応じ、「開き方向」を設定します。（結構難しいので、従業員におたずねください。）

(3) 全ページの原稿を読み込ませます。（参照：p3）

(4) 最後のページの読み込みが終わったら、「読み込み終了」→「スタート」の順に押下し、最終確認の画面にします。

(5) 「設定変更」を押下し、コピー部数に間違いがないかを再度確認してから、「確認コピー」を押下して、1部だけ試し刷りを出します。

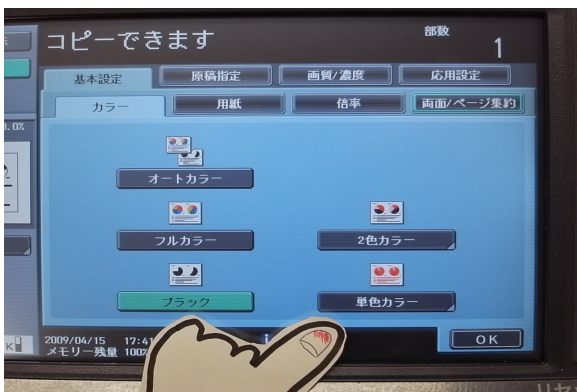
(6) 仕上がりの具合をよく確認します。特に、ページの並びや向きをよく確認してください。

(7) 問題がなければ、表紙の残りを手差しトレイにセットしてから、スタートボタンを押下し、残りを出力します。出力中も適宜仕上がり具合を確認してください。

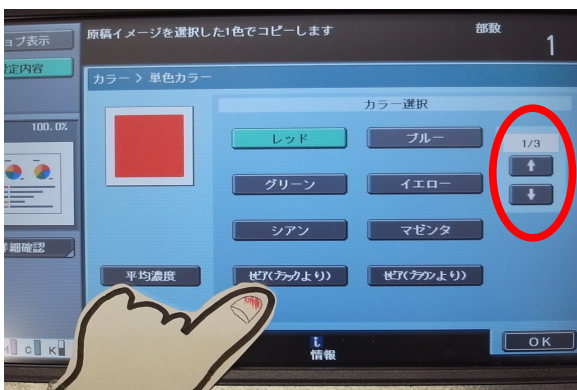
●単色カラー・2色カラーのコピーを取る



(1) コピーの初期画面で、「カラー」を押します。

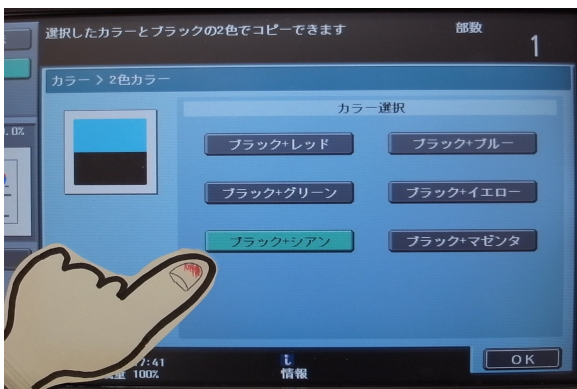


(2) 「単色カラー」「2色カラー」など、お好みの設定を選びます。



(3) 単色カラーを選ぶと、選択肢がズラズラ出てきます。3ページ分ありますので、画面右側の矢印キーも使いながら、ページを選んでください。

色を選択したら、「OK」を押します。



(3') 2色カラーを選んだ場合は、色の組み合わせを6つの中から選びます。

※2色カラーの分版について

2色カラーの分版は、かなり独特なようです。一般的に、黒は黒、鮮やかな色は色で出力されるようですが、色のハーフトーンが黒版のグレイになるなど、とにかく独特です。（あくまでも2色カラーなので、例

えば原稿が真っ赤でも、出力の設定が「ブラック+グリーン」ならば、赤の部分はグリーンにプリントされます。）